

さよなら だけが…。

笠井 和明

30年、30年と、やたら言い続けて来たが、ここで初心に戻ることしよう。

今の新宿に向き合い、路上の仲間とどうやったら共に生きられるのかをもう一度、試行錯誤する時でもある。

「30年」に、さほどの意味はない。それが、あたかも日常のようにこの街の広い仕組みの中、何となく、変わらず（しつこく？）、そこに在るのが私たちでもある。

それは、長い歴史の中のほんの一助でしかない。

思想信条はともかくとして、路上の仲間を心配する人々は、どの時代にも、そこそ一定数おり、そして、自ら信じる道を歩み続けて来た。それは大きな流れではないが、細々と、切れずに流れて来た歴史でもある。

そう云う私たちが、偉そうな団体にならず。また、大きな声を張り上げ、行政を糾弾するだけの団体にもならなかったのは、路上の事を様々な面で見続けることを止めなかったからでもある。

何が必要か？何を求めているのか？何が出来るのか？は、その状況によって様々である。人はそれを十羽ひとからげに語りたがるものであるが、実際はそんな単純なものではない。

そのひとつひとつを、どうしたら紡ぎ合わせることが出来るのか？そんな思索の思いを、私たちは「仲間」と云う古ぼけた言葉に託し続けて来た。それは傷の舐め合い程度のことで、とても小さなことなのだろうが、傷は舐めないと癒やせない。傷の具合は、すぐ治る者も、一生続く者も居る。「仲間」と云うのはそんな関係なのだろう。

そんなことなので、相も変わらず路上と格闘を続け、あまり世間に同情を求め過ぎず、そして気張らず、成果などとは無縁の、この活動を、生あるうちは続けて行きたいものである。

「路上の果て」がどこにあるか分からないが、共に歩んでいれば、いつかは辿りつけるのだろう。

……………

新宿駅の西口は、小田急本店の建て替えを中心とした再開発の真っ最中で、西口地下の「動線」は工事に合わせて日々変更。車道ロータリーも地上に行けず、タクシー乗り場も移動されるなど色々と変わってしまった。カリヨン橋からはとても眺めが良く、西口からの駅周辺が今は真っ裸と云った感。西口から東口が臨めるのも今の内だけなのだろうが、何だかすごい再開発をしているようである。

その東口に君臨する歌舞伎町はこの数年「トー横キッズ」問題で、取り締まる側との「イタチごっこ」を続けているが、それよりも古くから歌舞伎町に集まる若者の相談に乗っていた「日本駆け込み寺」が事務局長さんが薬物所持だとかで逮捕されたとのことで、それまで、体よく利用していた東京都から補助金を切られるなどして、今は活動があまり出来ない状態になっているようで



ある。

こう云う時の世間の変わり身はとてもすばやく、まさに、事情はどうだとかは関係なく「水に落ちた犬は打て」である。

連絡会は歌舞伎町での巡回やら相談活動はしていない。それは、彼らがいたからである。時折ホームレス状態の人の相談の件で電話をもらっていたが、ホームレスはこっち。風俗系の若いあんちゃん、ねーちゃんはあっち。と云う。そんな「不文律」がいつしか出来あがっていた。なので、パトロールは大ガード下まで。何かあったらコマ劇前広場（今のシネシティ広場）まで行って、紛れ込んでボコボコにされた「ジミーちゃん」を救出に行く、そこに居着いてしまった「エッチちゃん」にお酒の差し入れに行く程度の、そんな(?)レベルであった。「キャプテンフックの斉藤さん」が頻繁に出入りしてたが、彼は「組」にも仕えていた口なので、「やばい人々」とも何故か対等につき合っていたのだが、それは大昔のこと。

歌舞伎町では他に相談する場所はあるようだが、そこもなかなか親身になってはくれないのが実情のようで、頭ごなしに否定したりせず、同じ飯を食って関係を作り、泊まる場所を用意したり、再起に向けての条件を作る。そう云う時間をかけ地道なことをやってくれる場所は、行政の支援などなくとも、警察に目を付けられたとしても、何とか持ちこたえてもらいたいものである。

そんな関係もあり、若い子達が、同じ匂いがするのか、こちらにも寄って来たりもするのであるが、こちらはホームレスのおじさん対象の団体。話しもかみ合わず、関係はあまり構築できない。親身になると云うことは、結構大変なことなのだと、つくづく思う次第。

西口の方とは云えば、連絡会が毎週「おにぎりパトロール」や衣類配布で利用している都庁周辺の「ふれあい通り」の「打ち替え工事」があるとのことで、築40年ともなろう都庁とその周辺の施設は、そろそろ老朽化なので、それはそれで必要なものであろうが、当該場所には、点々と30件ほどの小屋や常駐荷物があがり、正月の放火事件（これまだ犯人はつかまっていない）があったところも対象。



が、道路を管理している東京都第三建設事務所の所長さんは、この春変わったばかりで事情が良く分からない。警告書を2週間前に貼り付け、それでどうにかなると思っていたようである。「何だ、そんなのあまりにも急じゃないの」との声が出るのも仕方がない。

そんな混乱を收拾しようと新宿区が巡回をし、移動先が見つからない人に丁寧に話し込み、保護等の対応を始め、何人かの仲間はそれに応じてくれたが、こうやって東京都の不始末は新宿区に押し付けられる。

この工事は道路整備なので一時的なもの。それを知っている仲間は、夜はカラコーンの間に寝床を作り、横になる。荷物は別の場所に移動。

今の季節は仲間の移動も縦横無尽。

ここら辺の問題は公園管理と道路管理の違いで明暗が分かれる。都立公園のテント管理はかなり柔軟で、「地域生活移行支援事業」（2004年開始だからもう20年前。この石原都政の大きな事業を知っている人も少なくなったが）の後、「適性化」の目標が何とか達成できたのは、現在居る人には暗黙の了解を出したり、公認の場所で居てもらったりする代わりに「新規流入防止」を徹底したことにもある。これは公園の場合は範囲が限定されているため、警備をしっかりつければできる。「新しく寝ちゃ駄目よ」と言うだけである。

一方、道路の場合は範囲が広いためそれが出来ない。野宿がしやすい場所は特定されるので、やろうと思えば、そこに「ハコバン」作って出来そうなものであるが、当時から、そして今でも、それはしない。把握もなかなか出来ていない。単に荷物が置いてあってもそれが放置されているのか、そうでないかも、特別な清掃作業をしない限りは分かりはしない。

ある程度固定化されてから巡回かけたとしても、そこに生活基盤がある程度出来てしまえば、タイミング的には遅く、それになびく人は少なくなるし、小屋だけ残し、「宿借り」になっても分からない。

都立上野公園の管理事務所の裏側には、「地域生活移行支援事業」の後、残った仲間だけが集える公園公認の囲いがある。小屋の仲間も居たし、荷物だけの仲間も居る。当時はかなりの数のテントがあり、小さな町のようにもなっていたのであるが、ここはもちろん新規には入れない。その残った仲間も時間をかけ、粘り強くアプローチを続け、また病気になったら救急車を呼ぶなどをし、今はほんの数件程度しか残っていない。こんな場所のことは公園管理の関係者や地元福祉事務所以外は知らないのであるが、これが未だにあることが驚きなのと同時に、それだけ人の生活の問題は、その解決には時間がかかる云う例でもある。

今の路上生活者の状況、役所の職員もまた代替わりをしているので、かつてのように「これは、色々な面から問題である」と認識するお役人も少なくなった。ターミナル駅や河川敷を有している区ならまだしも、そうではない区市町村ともなれば、その傾向は尚更である。管理

行政は福祉行政に丸投げ。丸投げされる福祉行政も困ったもので、巡回はそう云う仕組みがあるから行ったとしても、会えなかったり、空振りをしたり、とっとと帰れと言われてみたりと、慣れないところだと、そんな事となる。それが埒があかないとなれば、「何をやってんだい」と、警官を同行させての「脅し」や「いやがらせ」。自立の意思のあるホームレスには、その自立を支援するのが社会の役割であり、国民の義務でもあると、法律で規程されているのですよ」と、説いたところで、「いやいや都民の苦情が殺到しているのです、そんな悠長なことは言ってもらえない」。これは「緊急事態である」と、なる。何やら今の世界情勢を見ているようであるが、法であるとか人権であるとかはどのようにでも解釈できるようである。

地道に、丁寧に、根気強く、しかないのであるが…。

……………

東京都は「令和6年度（冬期）路上生活者概数調査の結果」を先日公表し、都内の路上生活者数は565人とされている。新宿区は76名で前回調査と増減はなし。この調査は概ね午前10時から午後4時まで、公園、道路、河川の管理者や電鉄会社に依頼し、目視で確認されたものである。

今回、国河川敷が減ったとのことであるが、それでも国河川が203名、都管理施設188名、区管理施設136名、市管理施設10名となっており、この構造はあまり変わっていない。

昼間調査であるが故に、今回の調査でもJRなど電鉄関係は28名と極端に少ない。夜になって簡易な小屋を造ったり、段ボールで覆って寝る流動層の人々は、その時間に目視できないので、対象から外されている。

これは実数調査ではなく、概数と明記されているよう「おおむねの調査」なので、傾向として捉えようと、実数を常に気にかけている私たちはその昔から言っているのであるが、数字と言うのは、いつの間にやら独り歩きをしてしまう。ここら辺の数は国にも報告され、東京都の路上生活者数として、いつしかカウントされ続けて来た。

私たちの巡回活動では各班の責任者がカウンターを持ち、路上で暮す人々の実数は常に把握し、記録している。それはこのニュースでも、活動報告として季節ごとに一覧表を出している。実際に新宿の路上には何人位いるのか？その内、どのくらいの仲間が食を求めているのか？などの情報は炊き出しの量をどのくらい作るのかなどにも直結する情報でもあるし、ここは拘る。

健康問題の把握や実態の把握にも必要である。どこに何人いるか？どのような仲間がいるか？〇〇さんはどこにいて、どのような経緯でその場を移り、どこへいったのか？巡回活動は常にそんな情報交換の場でもあり、それを全体的にまとめるのも、連絡会のお仕事である。

この概数調査が実施された同時期の連絡会深夜パトロ

ールの調査数は145人。これは深夜の時間帯で、新宿駅周辺のみの数。新宿駅の南側は渋谷区にも跨いでいるので、厳密に区内と云う括りは出来ないが、概数調査とこれだけの差があるのは、新宿ならではの流動層が占める割合の大きさでもある。

そんなこともあってか、東京都は「夜間調査」と「深夜帯ターミナル駅周辺調査」を最近になって始めたのは良いが、調査目的は「夜の実態の把握」となっているが、その数をどうまとめてたら良いのかを迷っているような感があり、そのまま羅列するので、何がなんだか良く分からない報告にもなっている。

新宿区の昼間の概数は76名。夜間の調査は新宿区は34名。深夜帯ターミナル駅としての新宿は85名。前にも指摘したことがあったと思うが、この夜間調査は自立支援センターの巡回職員が担っているようで、ブロックごとに対象や範囲も方法も恐らく違うようである。一言で言えば、「精度が低い」とも言える。たとえば第3ブロックの渋谷区の夜間は92名。これは区内くまなく回っているだろうと考えられる数ではある。これに比べ新宿区の34名なんてのは、一体どこを調べていたのか？これでは都庁の下あたりの数のようで、これを新宿の数とするのはどうであろうか？ほんの一部を回っているだけであることが数字からも知れる。

現状なんて何も知らない今の東京都福祉保健局の担当さんは、何の疑問ももたず、そのままはいはい数字を入れただけなのであろう。これもまた問題意識が低すぎる。無駄飯食らいの役人である。誰でも分かるこの程度の疑問は、しっかりとした説明書きが必要である。

なので、夜間調査の数は無視をして、概数調査の区内昼間人口76名と、新宿駅深夜ターミナル駅調査の深夜駅



人口85名を足すと165名。こんなものが実数なのであろう。

台東区の場合は概数37名、夜間は98名、上野駅20名と、これは、夜間と上野駅を足すと、だいたいの正確な数字になりそうで、第2ブロックも精度は高そうではある。この場合は概数調査は参考程度になり、実数はほぼ118名であろう。

豊島区などは概数29名、夜間は28名とほぼ変わらず、深夜池袋駅で17名なので、概数と足すと46名。まあ、こんなものである。

全数を把握しようとする時、一部精度が悪い部分がありながら、この統計を利用すると、夜間人口は482名+深夜138で合計620名で、これで国河川203名を加えれば、都内823名は確認される。まあ、実数として1000名を切ったか、切らないかである。

私も当時加わっていた「山谷労働者福祉会館人民パトロール班」の1994年の年末年始調査は都内約1500名とされている。なので、その頃の水準以下に長い年月をかけようやく戻ったと云うことである。あの頃はバブル崩壊直後だったので、テントは少なく、流動層が多かった。問題が放置され続けて、テントなど固定化していくのはその後の話。

都内路上生活者（23区）概数調査の数値で最も多かったのは2004年（平成16年）の5,497名、その数が千人を切ったのが2014年（平成26年）。そして近々500名を切るかも知れない。

昼間人口で500名を切るのは、ほぼ特定の地域に集中し、普段は一般都民からは目視されないこととなる。これはホームレス問題が忘れられ、必要性が問われる過程に入ってくる兆しでもある。それが夜間人口が1,000名でもほぼ同じ。

大都市圏だけの問題となり、大都市圏でも23区の対策ではなく、ブロックごとであるとか、特定の区だけの問題にもなる。台東、新宿で始まったホームレス問題は、またその区に戻るだけなのかも知れない。河川敷、ターミナル駅、一部公園や一部都道の周辺に点在しているのが、今の状況なので、それぞれ生活スタイルが違うことから、なかなかひとまとめには出来ない。駅なら駅、公園テントなら公園テントと、属性をもうちょっと絞って何らかのゆるやかな対応を続けた方が、対策としては良いのであろうが…。

.....

共に長い時を歩みつづけて来た一人の仲間が死んだ。
いつもそこに居た仲間が居ないのは、ただ、ただ寂しい。

長くやっていると多くの仲間の死に立ち会う。遺品を片づけたり、骨になるまで見届けてやろうと葬儀に出た

り、遺影を飾って花を手向けたり。活動の裏ではそんなことの連続でもある。連絡会で鬼門に入った仲間は数知れない。毎年盆の追悼会（夏まつり）で飾る遺影も祀り切れないほど多くなった。過酷な運命の果てに辿り着いた路上で出会った、思いがけない仲間の大きな輪。そこで泣き笑い、励ましあった日々。路上から脱却しても仲間を思う気持ちは変わらず、「自分だけが」よりも「仲間のためへ」と、仲間の力を注ぎ続けて来、そして斃れた仲間、一人ひとりの思いや遺志をどのように繋いでいくのか？年月を重ねるたびに、その重圧、責務が残った者にのしかかる。

「さよならだけが人生だ」は、井伏鱒二の中国詩人于武陵うぶりようの名訳。

この五行詩、単なる酔っ払いの歌のようで、これから人生どうなるか分からないから、ほらほら飲みなさいよと云う歌なのであるが、そこは家がなく放浪の旅に出た于武陵、今で言えばホームレス詩人。人の世の儚さ、別離の辛さをしっかりと余韻を残し、それを苦勞人、井伏鱒二は近代に蘇らせた。

そう云えば、あいつにはちゃんと「さようなら」を言っていなかった気がして、やほ用のついでに、「新三河島」の駅をおりる。山谷争議団の支援者だった矢口鷹司が亡くなったオンボロビルの一室は、流石にもうないだろうと思っていたが、そのオンボロさに磨きをかけ、未だあったのには驚きだった。

その一室に共同で寝泊まりし、明治通りを駆け抜け山谷に出入りした若き頃を思い出す。

突然であり、思いもかけなかった。ある日、部屋に戻ると倒れ、息がなかった。糖尿病の合併症で心不全を起こしたようで、非業の死と云う奴だった。まだ20代後半。山谷の仲間から愛され、これから争議団として、活動家として一人前になろうとした直前でもあった。

あの時はただ悲しく、泣いてばかりで、何もはっきり、やつに言ってやれなかった気がする。

「さようなら」と手を合わせ、灼熱の太陽のもと冠新道を西日暮里駅まで歩く。

あの時も今と同じよう、遺品を片づけていた。

悼みながら、泣きながら、それでも、それでも、前に進まなければいけないのか？

路上の果ては、まだまだ、見つからない。

(了)

巡回 おにパト報告 2025 3-6期

冬が終わり、春が来て、その春もあっと云う間で、梅雨入りも、東京は雨が少なく、6月から猛暑日が続き、そのまま夏本番となりました。巡回の寒さ対策でもあった「毛布配布」は6月の末で終了。代わりに「塩飴」で熱中症対策。仲間の配置も暖かくなると分散傾向。今はどこでも寝れるので、巡回の範囲も広がり、あっち行ったり、こっち行ったり。「おにぎり」や「カロリーメイトの非常食」などを持って新宿区内を歩き回っています。6月下旬に都庁下の工事に伴う「撤去」があったが、荷物は周辺に分散されただけ、人はそのまま夜になれば寝ころんでいるので、まだ工事が開始されていないので、特に変わらず、その工事を見据えて一部が渋谷方面に行ったこともあって、若干人が減ってはいるが、それも若干程度。全体からすると大きな変化にはなってはいません。

おにぎり巡回パトロール 3-6月実績

		都庁	西	公園	東	小計		周辺部	戸山地区	合計	
						(前年同月比)				(前年同月比)	
2025	3月2日	41	23	17	38	119					
	3月9日	42	12	20	35	109					
	3月16日	38	16	22	30	106					
	3月23日	52	19	22	43	136					
	3月30日	48	14	18	38	118					
	3月平均	44	17	20	37	118	(+15)	10	11	139	(+19)
	4月6日	40	19	18	38	115					
	4月13日	57	16	20	30	123					
	4月20日	46	16	19	30	111					
	4月27日	41	13	20	37	111					
	4月平均	46	16	19	34	115	(+9)	10	10	135	(+16)
	5月4日	48	17	22	36	123					
	5月11日	46	15	19	25	105					
	5月18日	48	24	22	44	138					
	5月25日	47	15	21	39	122					
	5月平均	47	18	21	36	122	(+9)	10	10	142	(+16)
	6月1日	55	17	20	43	135					
	6月8日	37	14	22	35	108					
	6月15日	47	14	26	43	130					
	6月22日	46	14	10	48	118					
	6月29日	44	15	11	49	119					
	6月平均	46	15	20	42	122	(+2)	10	15	147	(+11)
									4ヶ月平均	141	(+16)

深夜巡回（パトロール/軽食配布、毛布配布 3月より6月）活動で出会った仲間の数

2025									
日時	天候	4号街路	都庁下周辺	西口地下	西口地上	東(御苑含)	大ガード周辺	新南口周辺	深夜計
3/9-10深夜	晴	24	31	48	16	1	2	16	138
3/23-24深夜	晴	28	33	47	17	1	2	14	142
4/13-14深夜	雨	23	34	54	14	2	2	24	153
4/27-28深夜	晴	27	35	51	17	1	3	18	152
5/11-12深夜	雨	22	34	52	22	1	7	19	157
5/25-26深夜	晴	28	33	57	18	2	4	19	161
6/8-9深夜	曇	28	38	56	22	1	5	19	169
6/22-23深夜	晴	32	23	51	21	3	7	20	157
							平均	154名	前年比+1名

お花見

今年の東京の桜は意外と早めに満開となり、それに合わせて3月29日に、恒例の「花見の会」を公園で開催と予定していましたが、当日は生憎の雨。急ぎょ屋根のある場所をと探したところ、都庁の奥に満開の桜が見える場所があり、どうせ炊き出しになるのなら桜ぐらい眺めようと、変則的な場所にて開催されました。

当日のお弁当は「生姜焼き弁当」200食分。前日から太田さんを始めとする炊き出し班が精魂込めて作ったもの。期せずして太田さん最後の作品になってしまいました。味はもちろん天下一品。集まった100名近い仲間は「うまい」「うまい」と舌鼓。そこへビールやら焼酎やらワンカップやら、アルファ米などの「おみやげ」も配り、いつもなら大宴会になるのであるが、通路の上ではさすがにそれは出来ず、配り終えたら三々五々でお持ち帰り。古い仲間は縁石に座りながら「はい、乾杯」「冬場は本当にお疲れさまでした」「いえいえ、どういたしまして。でも今年は寒かったね」と、たわいのない会話。

まあ、天気が悪くても仲間が集まるのは何かと楽しく、そして元気を貰える一日でした。



い りりん村プロジェクト ～ 2025 田植 ～

「令和の米騒動」などと言われ、今や「米問題」が世間を賑わせている中、今年も連絡会の精鋭部隊が「越後いりりん村」に出立。村長さんの田植えを手伝って来ました。

ただ貰うばかりでは、それがいつしか「当たり前」のようになってしまい、我々はとても不遜な態度をとってしまいます。感謝の気持ちをどう表すのか？地方の思い、生産者の思いを、どう受け止めるのか？共に何か出

来ることはないのか？貴重なお米を、炊き出しのためにと貰い続けている私たちはそんなことを考え続け、いつしか足は信州に行ったり、越後に行ったり、果樹を作り、野菜を作り、米を作りと、たいした役にも立ちませんが身体を動かすことで、ほんの少しでも恩返しが出来ればと思っています。

今年の越後いりりん村はマイペース。そして「援農」スタイルとなりました。この数年は少しキバってやり過ぎたこともあり、地元の方々に気苦労をかけてしまっていたようです。

初心に帰り、お手伝いから再スタート。宿泊場所のいりりん小屋を整備し、そこで共同生活をしながら農作業。汗水流して温泉つかり、地元の人々と歓談するのも、出稼ぎにきた作業員のような感じで懐かしくなる。

5月まで雪が残っていた豪雪地帯なので、田植えも平地より遅くなり、そのおかげで梅雨時期に重なってしまい、あいにくの雨模様。また苗の生育も遅れていたとのことで、あまり多くは手伝えませんが、そこそこの場所で、何とか田植えの格好だけはついたよう。村長さんも喜んでくれました。

次回は8月。草刈り作業です。しっかりと育ち豊作になるよう願ってやみません。



追悼… 太田さん



葬儀の時、弟さんが「30年前のおやじの葬式が最後で、以降音信不通、大阪から東京に出て来たことは知っていたが、どこで何をしていたのか?」「30年ぶりの兄貴との再開がこんな形になるなんて…」

わざわざ遠方から弟さんが来て下さっただけでも太田さんは果報ものである。

太田英一さん(69歳)が6月5日、都内の病院にて末期がんのため亡くなった。

その10日ばかり前まで事務所に来て、無理をするなど周りが言うのを聞き流しながら衣類の整理を黙々としていた。その後全身の痛みで動けなくなり、自ら救急車を呼び、入院。着替えを持って駆けつけた時は「まあ、しょうがない、後のこと頼んだ」と、はにかみ、笑っていたのであるが、その後急変。そのまま帰らぬ人となった。

10年前ぐらいか、暮らしていた新宿区内の支援付アパート「麦の家」で吐血し、かけつけた支援員の仲間に助けられ病院に行き、胃ガンが確認された。胃を全部摘出。

雑誌販売の仕事を辞め、生活保護になり、療養しながら、炊き出しの炊き出しの長であったり、パトロールだった支援の活動を続けていた。

その昔、「池袋野宿者連絡会」と云う団体があった。「ホームレス自立支援法」が出来るか出来ないかの頃、

「ホームレス支援全国ネット」の参加団体にもその名があるよう、そして実態ともども池袋の仲間を代表する団体でもあった。太田さんはその団体の最後の代表。「池袋」の旗をもってメーデーだとか、集会だとかに仲間を引き連れて現れていた。

晩年は病気で痩せてしまったが、その頃は丸々とした体形。その風貌から「池袋の熊さん」とか「イケグマ」とか呼ばれ、敵を作らない性格から誰からも愛され、仲間の輪の中には必ずいた。

阪神淡路の震災の時は運送会社の大型トラックの運転手で、救援物資を被災地に運ぶ仕事もしていたとのこと。その時、炊き出しの現場にたびたび遭遇していたようである。山口組の炊き出しにも物資を運んだらしく、「よう、兄ちゃん、ご苦労さま」と、その筋の方々から逆に励ましをもらったなんて話しも良くしていたものである。自衛隊時代のサバイバルな話しも得意で、北海道帯広に在任中、ジープに鹿が飛び込んで来たので、そのまま車に載せ、部隊に帰って、皆で、さばき、鍋にしたなんて云うのも彼の武勇伝の一つ。

炊き出しは好きだった。調理人のそれではなく、皆でわいのわいのやりながら作って食うのが好きだったのだろう。ダイナミックな男料理が、彼の持ち分であった。新宿の越年の餅つきも、炊き出しも太田さんが担当。NPOの調理室でエプロン掛け、えっさ、えっさと鍋を振るう姿は、往年の力を振り出そうと、力強かった。「クマさん」は「クマさん」のままだった。

彼の後半生はホームレス運動と共に在った。それに半生を捧げた一生でもあった。

「たいした人生じゃなかった。死んだら兄弟には知らせず、遺骨はそこらにほっといてくれよ。」

太田さん。すまん。最後の約束はことごとく破りました。

あなたは自分が思っているよりも、誰からも愛される、たいした、そして立派な人生でした。

無念、追悼…。

そして、さようなら。



これから

暑いだけが取り柄の夏が、やたらと長く続くようです。暑い時はとにかく木陰で休むのが「熱中症対策」。

6月末まで深夜の巡回で毛布を配っていたが、それが終わったら、今度は「塩飴」。「ポケットにいくつか入れ、汗かいた時には舐めたら良いよ。そんな荷物にもならないしね」と、こちらも「熱中症対策」のささやかな支援。この調子だと「塩飴」配布は9月まで続きそうです。

「夏まつり・慰霊祭」も夏の盛り、夕方からの涼しい時を狙って木陰で行います。これだけは、死んだ仲間が恨んで出てきそうなので、いくら暑くても止めるわけにはいかない。

9月になると毛布やお米募集など冬の準備が始まり今年は5年に一度の「国政調査」。今回も路上の調査として協力させていただきます。

10月にもなればいろいろん村の稲刈りと慰安旅行。そして、寒くなれば越冬の頃。

一年はあっと云う間に始まり終わる。いつもの通り、慌てず騒がず、仲間のために、気張らず、着実に。

夏まつり・慰霊祭 2025

in新宿中央公園

2025/8/11 PM16:00より

慰霊祭&炊出し (冷やし中華)

&暑気払い (ビールなど飲料)

(雨天は都庁下)

by新宿連絡会

新宿連絡会 会計報告

信州「山谷農場」からは「おにぎり」用のお米が定期的に届けられています。「米不足」「米価高騰」のご時世の中、ありがとうございます。衣類や生活物品もまた同じく全国の方々から毎週送られます。寄付金も多く頂いています。「物価高」のご時世、皆々様、生活がそんなに楽ではなかるうに、路上の方を心配して下さり、本当に感謝しております。そう云う皆様方の気持ちがあることが私たちの救いでもあります。お陰さまで安定して支援活動が出来ています。「本当に困った方に必要な量だけ」「同じ目線で頑張ろうね」と、そんな地元に根ざした地道な活動です。まだまだ路上に居る一人でも多くの仲間が出来るだけ早く、人生をやり直せるよう、努力して行きます。引き続きのご支援、宜しくお願い致します。

2024年度 新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
Ⅰ 計上収入の部		Ⅱ 管理費	
Ⅰ 寄付金収入	8,586,266	旅費交通費	5,500
計上収入合計	8,586,266	通信費	175,360
		消耗品費	54,762
		事務用品費	130,010
Ⅱ 計上支出の部		事務所費分担金	360,000
Ⅱ 事業費		衛生管理費	22,985
おにぎり/炊出し事業	633,756	支払手数料	135,871
巡回活動費	709,576	車両費	285,027
農業支援事業費	772,182	修繕費	6,396
夏まつり事業費	184,534	計上支出合計	5,243,867
越年越冬事業費	1,427,292	計上収支差額	3,342,399
その他活動事業費	340,616	前期収支差額	100,395
		次期繰越金	3,442,794

2025年度 4月～6月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
Ⅰ 計上収入の部		Ⅱ 管理費	
Ⅰ 寄付金収入	1,089,800	旅費交通費	0
計上収入合計	1,089,800	通信費	0
		消耗品費	0
		事務用品費	4,100
Ⅱ 計上支出の部		事務所費分担金	90,000
Ⅱ 事業費		衛生管理費	0
おにぎり/炊出し事業	217,820	支払手数料	5,827
巡回活動費	207,209	車両費	64,485
農業支援事業費	61,735	修繕費	0
その他活動事業費	79,302	計上支出合計	730,478
		計上収支差額	359,322
		前期収支差額	3,442,794
		次期繰越金	3,802,116

●活動カンパ

振込は 郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所をお願いします

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10-106号NPO新宿気付「新宿連絡会」宛てでお願いします。